

## 2020年度広島県がん診療連携協議会緩和ケア部会 PDCA サイクル実施報告

### 1. 目的

「がん診療連携拠点病院等の整備について(健発 0731 第1号平成30年7月31日付厚生労働省健康局長通知)」におけるがん診療連携拠点病院の指定要件「PDCA サイクルの確保」に関連して、広島県内の各がん診療連携拠点病院(国及び県指定)の緩和ケア診療に関するPDCAを実施し質の向上を目的とする。

### 2. 調査方法

15拠点病院による相互訪問もしくはメール調査とし、調査方法はマッチングした施設間で決定した。第1次評価は11月末まで、第2次評価は2月末日までに実施し、評価施設は被評価施設と事務局に結果を報告した。事務局はそれらをまとめ、全施設に配信し、3月の部会(Web)で活動報告、各施設の取り組み内容について意見交換を行い共有した。

### 3. 実施内容

- 1) 事務局が評価シートを各施設に配信
- 2) 15拠点病院それぞれが、広島県の分野別行動計画の中から、取り組みたい(取り組んでいる)項目記号を1つ選択し、計画を立案した。
- 3) 第1回緩和ケア部会にて、相互評価マッチング施設グループで各施設のPDCAについて情報交換と進捗状況、課題の検討を行った。グループで一次評価の調査方法を検討した。
- 4) 第3者評価シートに沿って、自己評価、他者評価を行い、被評価施設と事務局に報告した。
- 5) 第2回緩和ケア部会(Web)で今年度の取り組みや成果を共有し、他施設の取り組みや成果について共有した。

### 4. 評価

取り組みの内容は、「スクリーニングについて」「人材育成」「地域連携強化」「麻薬の適正使用」「チーム活動評価」「持続鎮静について」などでした。

施設間の相互評価結果は、自己評価平均3.0点、他者評価平均3.5点と自己評価が低い結果だった。自己評価が低い項目としては、「計画に沿った実施がなされているか」「処置・改善策が挙げられているか」の自己評価平均が2.7だった。計画した予定がコロナ禍の影響で実施出来なかったこと、今後の活動の見通しが立たないため、改善策が立案しにくかったことが考えられる。しかし、他者評価はそれぞれ3.2と高い評価だった、予定した通りに実施はできなかったが、工夫して行ったことを評価した結果だった。また、今年度も相互訪問はできなかったが、Webカンファレンスが急速に普及したことで、Webで意見交換を行った施設もあった。

3月の部会で各施設から取り組み内容、成果、課題など報告し取り組み内容を共有した。また、自施設で取り組みが困難なことなど、他施設の取り組みが参考になったという意見が多かった。

広島県がん診療連携協議会緩和ケア部会

部会長 岡本 泰昌

広島大学病院緩和ケアセンター

副センター長 倉田 明子

GM 中山 満誉